

新校舎よ、こんにちは

小学部 寺澤 東彦

昨年9月に赤坂から懐しの六本木にもどり、登校して来た子どもたちが発した大きな歓声とともに新しい建物での生活が始まりました。校舎の配置が旧のままであること、土の校庭や、シンボルツリーである銀杏や泰山木、樟の大樹や見覚えのあるたくさんの樹木が以前と変らぬ姿で迎えてくれたことなどが記憶の継承の大切な要因となっています。異和感を抱くことなく新しい環境に順応してくれたことは私たちにとっても幸せなことでした。

延床面積が2倍となりましたのでゆとりある空間がいくつも確保できました。1学年2教室の間にはかつては無かったワークスペースが考え出されました。遮音性の高い可動間仕切りによって3つの空間が1つの広いスペースとなったり2つにすることもでき、今後の多様な学習形態に対応できるものと期待しています。この2クラスに挟まれた部分はグランド側と廊下側にも開放され廊下側の壁面はオール型でガラスブロックとしたので明るく、同じ弧を持つ造り付けベンチ、さらにテーブル、本棚も用意され、読書や友だちとの交流の場として利用されています。

廊下の曲がり角部分は、1、2階とも広く、オープンスペースとして学年の集まりにも使える程ですし、雨の日は遊び場ともなっています。

地下1階にはドライエリア付きのプレイルームがあり低学年の体育の授業が可能なくらいのゆったりとした広さと、やわらかなコルク床仕様で、いろいろな利用が工夫できそうです。

従来地下に位置していた食堂は2階に上げ、南と西側はガラスを多用して、光と風と緑を豊かに感じられる明るい昼食の場となりました。献立は学校栄養士と管理栄養士が知恵を絞って学校給食委員会に諮られて決定されます。2年間

の仮校舎時代はお茶、お弁当持参でした。今はその荷物からは解放されましたが、苦手な味付け、食材に時間いっぱい挑戦することになっています。

図書室は昇降口の真上で、樹齢100年を超える2本の樟の太い幹や枝、青葉と間近く接し、朝の光がいっぱい射し込む好位置を占めています。作家の井上ひさし氏は人生を豊かに支えてくれるものとして、音楽・運動・読書の3つを挙げていますが、英和の子どもたちが一人残らず生涯にわたって読書を愛する暮らしを続ける下地がこの場所で作り出されることを心から願っています。また向き合っているコンピュータ教室と連動しつつ、情報発信基地としての役割をも果たして欲しいと考えています。

旧校舎にはありませんでしたが、西側校舎の屋上は教師の引率のもとに利用できるようになっています。水道も設置しました。写生や草花を栽培することなども可能になりましたから子どもたちの活動に奥行きや幅を与えてくれる場所になってくれるものと思っています。

体育館の天井高は女子の小学校としては充分ですし、講堂の音響も評判の良いもののひとつになっています。

パイプオルガンや校庭の遊具、また什器備品などこれからの課題も多いのですが、少しずつ整えてゆきたいと思います。

施工の大林組の現場の方によると「ここまでするのか」と思う程「堅牢な建築」に仕上がっているとのことですから、天変地異の際にも在校中の児童の安全が保障されている事は心強い限りです。

小学部の教育に関わる者にとっていよいよ正念場がやってきたという実感を強くしています。

竣工式



東洋英和女学院小学部校舎改築工事

定 礎 式

日時 二〇〇〇年八月二日(水) 午前九時

式 次 第

司式 小学部教頭 上村 稔

黙 禱

聖書・祈禱 マタイによる福音書 七章二四節～二六節 司式者

除 幕 理事長 亀徳正之 司式者

収納品の紹介 司式者

黙 禱

お茶の会次第

時間 午前11時～正午

場所 小学部新校舎2階食堂

司会 小学部教諭 伊木倫子

- 1) 開 会 司 会 者
- 2) 施 主 挨 拶 院 長 衛 藤 藩 吉
小学部長 寺澤東彦
- 3) 設計監理者挨拶 三菱地所株式会社
専務取締役 清水重男
- 4) 施 工 者 挨 拶 株式会社 大林組
専務取締役 脇村典夫
- 5) 歓 談
- 6) 閉 会 司 会 者

東洋英和女学院

小学部校舍竣工感謝式

日時 二〇〇〇年十月十日(火) 午後二時
場所 東洋英和女学院小学部講堂

記念演奏プログラム

ピアノ独奏

田島 佑紗 (6年)
2つのアラベスクより 第1番
C.A.ドビュッシー作曲

牧 佑佳 (5年)
ソナタ11番 K. 331より
第3楽章「トルコ行進曲」
W.A.モーツァルト作曲

ヴァイオリン二重奏

志水 つかさ (5年)
崎川 真由子 (5年)
伴奏 山内 桜子
2台のヴァイオリンのための協奏曲
二短調より 第3楽章 BWV1043
J.S.バッハ作曲

竣工感謝式次第

前奏	司式 小学部教頭 上村 稔
讃美歌 一九一番	小学部教諭 山内 桜子
聖書朗読 列王記上第八章	小学部長 寺澤 東彦
祈 禱 二八節〜二九節	学院長 衛藤 藩吉
式 辞	法人事務局長 田坂 宏
建築経過報告	三〇四番
讃美歌	キリスト教学校教育同盟理事長 青山学院 院長 深町 正信
祝 辞	日本私立小学校連合会副会長 トキワ松学園理事 小学校長 武田 博信
讃美歌 岩なる主イエスよ	同
後奏	同

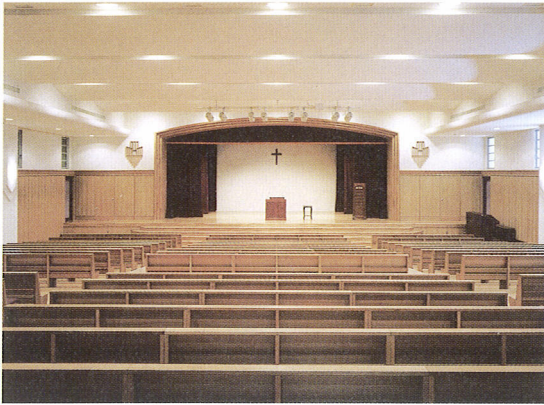
児童による記念演奏



正面玄関



西側専科棟と校庭



講堂



ホワイエ、ステンドグラス



12月、給食の最後の日の献立は、お楽しみメニューです。赤や緑のクリスマスカラーのテーブルクロスの上にごちそうがのっています。



小学部食堂

全校生徒が集まって全員で一緒に給食を食べます。2Fになり、明るくなりました。



新しい教室

旧校舎に比べて、1.5倍の広さです。



オープンスペース



1組とW.Sと2組をつなげると、こんなに広いのです。



小学部体育館

広い体育館です。講堂の下にあります。

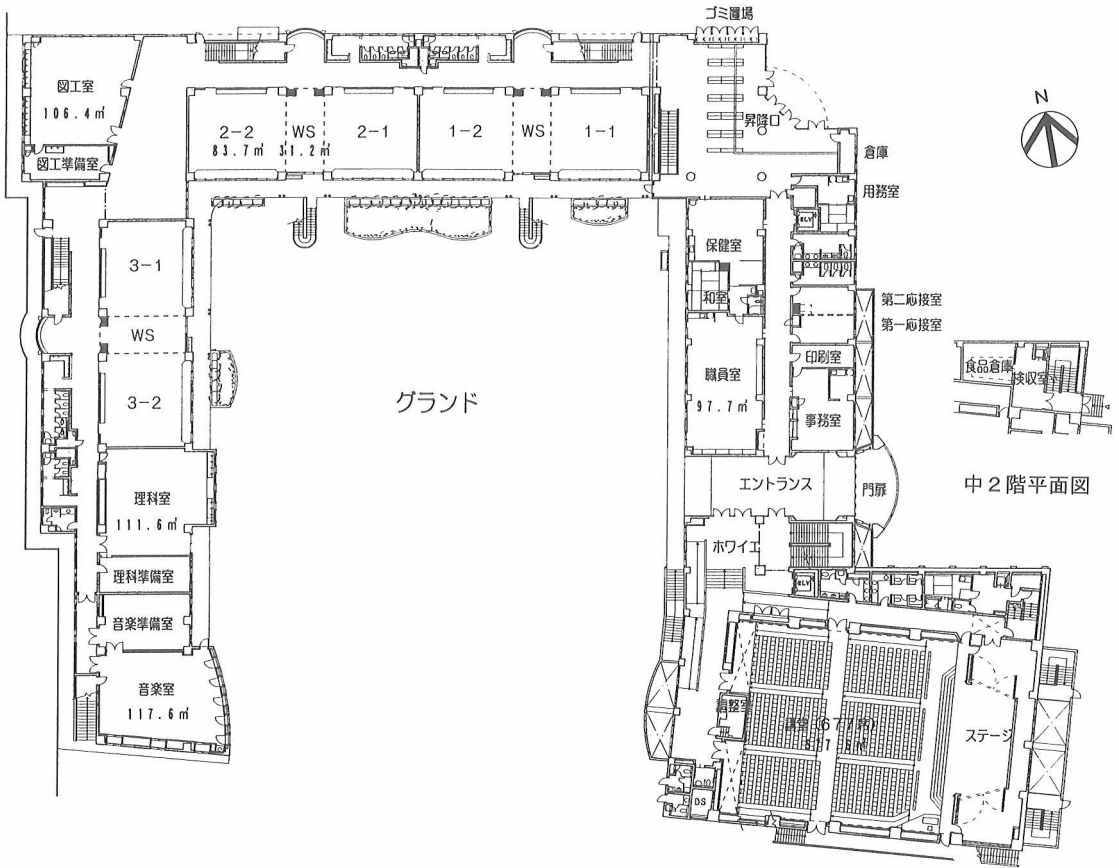


新しい校庭で運動会



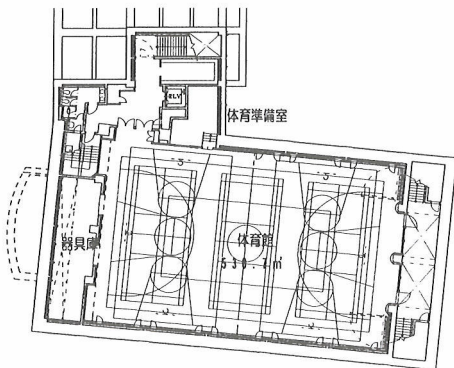
新校舎の校庭で縄跳びをしています。回してくれているのはお父さんかな。

見取図

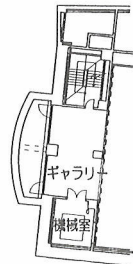


中2階平面図

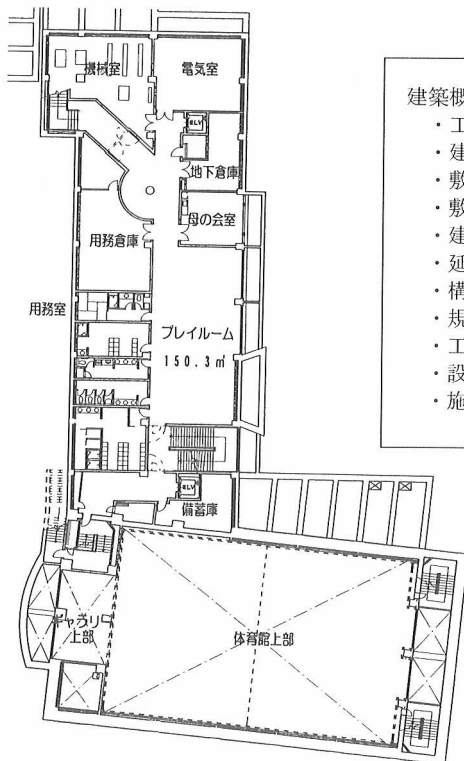
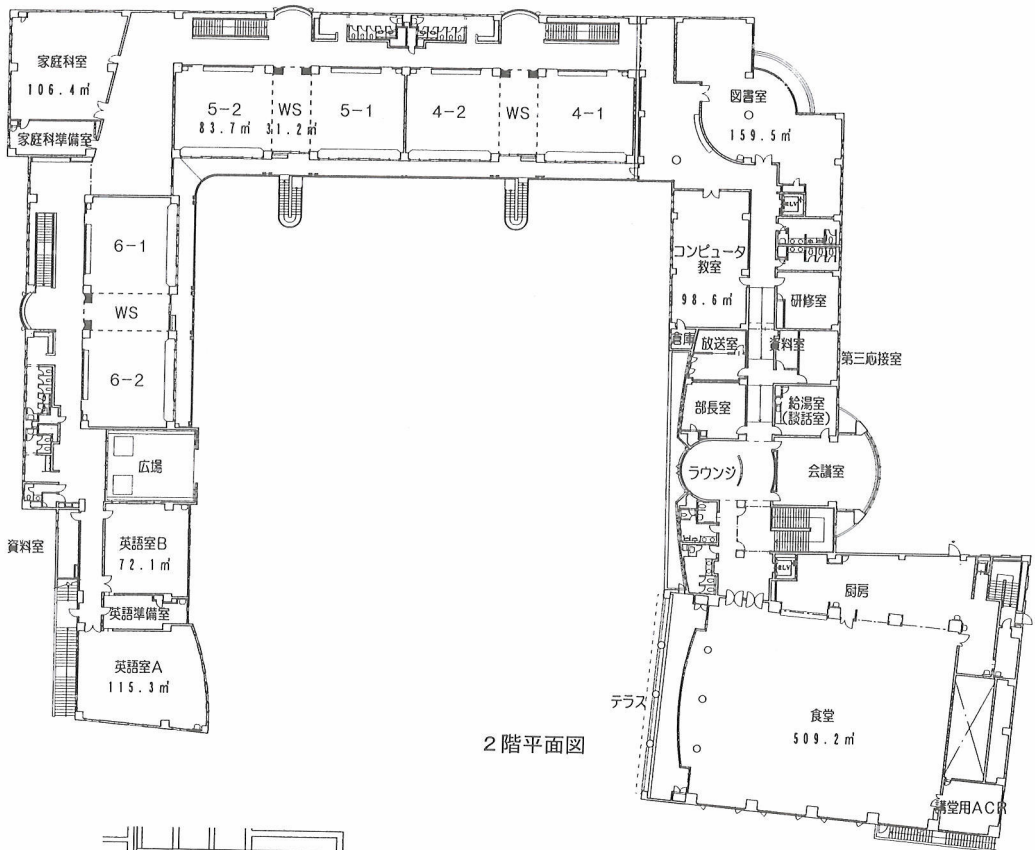
1階平面図



地下2階平面図



地下1階平面図 (ギャラリーレベル)



建築概要

- ・ 工事名称 東洋英和女学院小学部校舎改築工事
- ・ 建築主 学校法人 東洋英和女学院
- ・ 敷地 東京都港区六本木5丁目6番14号
- ・ 敷地面積 11,805.07m²
- ・ 建築面積 3,715.30m²
- ・ 延床面積 8,805.13m²
- ・ 構造 鉄骨鉄筋コンクリート
- ・ 規模 地上2階、地下2階
- ・ 工期 平成10年12月14日～平成12年7月31日
- ・ 設計監理 三菱地所株式会社一級建築工事事務所
- ・ 施工 株式会社 大林組

<思い出の先生がた> 2

忘れ得ぬ人 江良顕三郎先生の思い出

小野寺 昭 夫

「目で見る東洋英和女学院110年」142頁の一葉の写真、1957年9月、箱根で開催された全院協議会の記念撮影であろう。

左端、横巾の広い長野先生と好対象のひとつきわ背の高い江良顕三郎先生である。一見坊主に見える頭と太い眉毛、ご退任まで、その後も変わらなかったなつかしいお姿である。

1967年10月、年度途中、小学部長に就任された江良先生のそれまでに増すご苦労と、画期的な小学部教育の改革はその時始まったと云ってよいであろう。

文部省の示す学習指導要領、教科書とその指導書に依存した、いわば受動的教育態勢であり、内容だったのが実態であった。

伝統的の五日制に新しい教育的意義を見出し、教科・キリスト教教育・特別活動と生活指導の三大領域を総合的、有機的に捉え直し、英和に相応しい「教育課程」を編成しようという、かつてない積極的な気運が盛り上がり、江良部長就任を契機に新しい時代、キリスト教学校らしい教育課程編成と実践に、江良先生のもと、一致して当たることとなった。「俺は体だけ大きい無能な木偶坊だ」と仰しゃり、これらの研究を自発的な教職員に委ね、江良先生らしい大局的視点から指導されたのである。「責任は俺がとる。精一ぱいやってくれ」と励まして下さった。1968年から3か年の研究計画、教職員組織が整えられ活動が始められた。

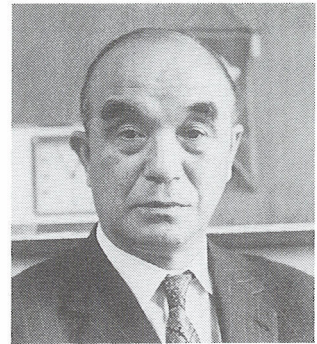
江良先生の指導の大きなことは、「信頼と協力」そして「神を中心とした教育」の重要性で

あった。当初の目標は71年全面実施であったが20名の教職員の広域かつ多領域の研究のため、幾多の問題に遭遇した。

しかし、多くの困難を克服し、72年全領域の研究を終了し、翌73年4月から全面実施に入ることができた。

この間、入学考査と重なったり、各種行事の遂行にも、江良先生は、ある時は夜を徹して教職員と行動を共にし頑張り通された。

奥様を先に天に送り、ご生活は決して容易ではなかったが、決してそれを口実になさらなかった。訥々とした津軽訛の語り口、生一本の誠実さ、忘れ得ぬ人、江良先生である。



江良顕三郎先生ご略歴

1909年 青森県で生まれる。

青森師範学校卒業後、青森の小学校で教鞭を執る。

1934年に上京、滝野川第3小学校、青南小学校で教鞭を執る。

1949年

東洋英和女学院小学部に奉職

1967～1974年

東洋英和女学院小学部長

1993年12月22日 逝去